

氏名	安藤 健夫
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 3291号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Factors Affecting the Rectus Femoris-Patellar Tendon Q-Angle Using A Computed Tomographic Scan (CTを用いたQ-angle(大腿直筋-膝蓋帯がなす角)を左右 する因子)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 村上 宅郎 教授 田中 紀章

### 学位論文内容の要旨

膝蓋骨脱臼の骨性素因としてQ-angle (大腿直筋と膝蓋靭帯がなす角) が用いられる。しかし、膝蓋骨の外側偏位、軟部組織の誤差、大腿直筋の付着部の違い、下肢回旋による誤差が影響し、正しい脱臼素因を示していない。そこで私は1990年、CTを用いたQ-angleを測定する方法を考案した。私の方法とは、下肢CT像を用い、下前腸骨棘、大腿骨Grooveの中心、脛骨結節を結んだ角度であり、上記の不明な4点が明らかとなった。今回CTを用いたQ-angleを左右する因子として、その角度を決定する各々の点が内側または外側に偏位しているか、調査した。対象は、反復性膝蓋骨脱臼群が83肢であり、対照群が55肢であった。CTにより上記各々の部位をスライスし、これらCT像より各々の点の内外側への偏位度を求めた。その結果、脛骨結節の外側偏位がCTを用いたQ-angleに主に関与していると思われた。これらの計測により、脛骨粗面移行術を重視すべきと考える。

### 論文審査結果の要旨

従来、膝蓋骨脱臼の骨性素因として単純X線写真によるQ-angle (大腿直筋と膝蓋靭帯がなす角) が用いられている。本研究は、反復性膝蓋骨脱臼群83肢と対照群55肢を対象として本研究者の考案したCTを用いたQ-angleを左右する因子を測定し、両群を比較検討して骨性の脱臼素因を調査したものである。その結果、脛骨結節の外側偏位が主に関与している因子であることを明らかにしたものであり、膝蓋骨脱臼の治療法を考慮する上で重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。